

目指す学校像	～潤いと活気と感動のあふれる学校を目指して～ 希望の登校 満足の下校
重点目標	1 学びの自律化と個別最適な学びに向けたICT機器活用の推進 2 安心安全な学校づくりに向けた生徒指導・教育相談体制の強化と教育環境の整備 3 学校・家庭・地域の連携を目指したコミュニティ・スクールの推進 4 すべては生徒たちのため、組織力・授業力の向上に向けた教職員研修の推進

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査の教科別調査(国語・数学・理科)において全国平均及び市平均と比べて下回っている。 ○日頃の学習状況の様子から、その教科においても課題に対してまじめに取り組む姿勢がみられる。 ○特に数学に関して無答率が高い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語について学習指導要領の内容の「話すこと・聞くこと」に課題があり、数学では「数と式」「データの活用」に課題がある。 ○学習の定着や取組に個人差がみられる。	・主体的に物事を解決する力の育成を目指したICT機器を活用した授業づくり ・個別最適な学びの実践と学びの自律化	①エバンジェリストを中心として、ICT活用に係る環境を整備し、機器を活用した授業をより多く実践する。 ②さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業を積極的に行い、思考力・判断力・表現力を育成する。 ③デジタル教科書やICT機能を活用した授業を実施し、生徒の学ぶ意欲を高める。	①Wi-Fi環境やタブレット修理等への対応を行い、授業でより多くICT機器を活用するための研修を行うことができたか。 ②さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業を実践することができたか。 ③授業でのIDT機器の利用頻度を週3～4回以上と回答する割合を増加させる。	①スタディサブリやドリルパークを活用し生徒自身が課題克服を目指し、取り組むことができたか。 ②自身の課題を克服するために、粘り強く学習に取り組むことができたか。 ③生徒自ら課題を解決する姿勢をもって課題に取り組むことができたか。	・エバンジェリストを中心に、タブレット使用の約束を決め、環境整備を行い、授業でタブレットを活用しやすいようにした。 ・さいたま市「アクティブ・ラーニング」型授業の実践については、まだ教員により差がみられる。 ・授業でのICT活用頻度 週3回以上 68.6%→56.4% ほぼ毎日 12.4%→15.5% ・スタディサブリの月次アクティブ率(9～11月)は学年を平均すると31%であり、昨年度(26%)に比べ活用率は向上している。 ・自ら課題を解決する「主体的な学び」に係る授業に関するアンケートでは平均3.16ポイントで市内平均値(3.13)とほぼ同程度であった。	B	・エバンジェリストによるICT機器活用研修会をさらに充実させる必要がある。 ・ICTを活用しながらより探究的な学びをどのように進めるかを課題として研修を進めていく。 ・学年によりICT活用頻度に大きな差があるため、教科としてICTを活用した授業づくりを推進する。 ・毎週水曜日に実施しているロング読書の時間にスタディサブリを使用できる時間を設け、個に応じた課題を克服できる時間を設ける。 ・学びの自律化に向けて、自ら進んで学びに向かう生徒の育成が課題である。
2	<現状> ○学校評価アンケートにて学校生活が充実していると答えた生徒は93%であり、多くの生徒は学校生活が充実していると考えている。 ○昨年度は、施設設備の不備によるケガ等はなかった。 ○コロナ禍において、多くの学校行事が縮小され、生徒の活躍の場が制限されている。 <課題> ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予想したり、回避したりする力を育むことが課題である。	・全ての生徒が安心・安全に学校に通える教育環境の整備 ・安心安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成	①校内における生徒指導部会及び教育相談部会、生徒に関する情報共有と対応方針を検討・実践し、個の実態に応じた指導の実践に努める。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ②学校自己評価に係る生徒アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①生徒アンケートにおいて「安全を考えて行動することができた」と回答する生徒の割合が90%以上となったか。 ②教員による学校評価「安全点検による教材教具の見直しを図ることができたか」肯定的回答80%以上となったか。	・教育相談・生徒指導部会等校内委員会では、常時、担当が情報を収集したことをICTを活用することで、全職員が共有できた。早期に解決することもできた。 ・学校評価アンケートによる保護者への、「お子様は充実した学校生活を送っていますか」への肯定的回答は88%となった。また、生徒への「充実した学校生活を送っていますか」への肯定的回答は94%であった。 ・さいたま市教育研究大会の保健体育安全教育における発表後の生徒アンケートにおいて関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となった。 ・教員による学校評価「安全点検による教材教具の見直しを図ることができたか」肯定的回答90%以上となった。	B	・毎週火曜日に行われている、教育相談・生徒指導部会では、収集した情報から、生徒への指導・見守り等を含め、外部機関の活用等、さらに問題解決に向けて進めていく。 ・スクールダッシュボードを活用し、生徒の心の状況を把握する方法について検討していく。 ・来年度以降、保健体育の研究は終了してしまうが、今年度、研究発表に向けて取り組んだ「安全を考えて行動すること」を生徒、職員共に習慣化していく。 ・安全な学校生活に向けて、委員会や学級等で主体的に考え、解決する機会を増やす。
3	<現状> ○本校学校運営協議会を立ち上げ、「学校運営協議会」の在り方等について説明するとともに、本校の現状や課題について共有した。また目指す生徒の姿について熟議を重ね、本校においては学力の向上を目指したいという意見がでた。 <課題> ○それぞれの立場から見える現状や課題等について、熟議を通して明確化し、目指す生徒の育成に向けて取組内容を学校・家庭・地域が共有する。	・目指す生徒の育成に向けた学校・家庭・地域が協働で行う取組の整理と実施 ・コミュニティ・スクールの内容の共有と学校の教育活動の公開	①学校運営協議会を年3回実施し、目指す生徒の育成に向けた取組を整理する。 ②熟議した内容に基づき、具体的方策を検討・実施し、学校・家庭・地域が協働した取組の成果を検証し、充実を図る。	①学校運営協議会を年3回実施し、目指す生徒の育成に向けた取組を行うことができたか。 ②学校運営協議会に係るアンケートで「コミュニティ・スクールの一員として目指す生徒の姿の共有」の肯定的評価が90%以上となったか。	①学校評価アンケート(保護者)で情報の発信に係る肯定的な評価が80%以上となったか。 ②より多く学校を公開し、生徒の現状や課題等を知っていただく機会をつくることができたか。	・予定通り、学校運営協議会を実施することができた。今年度新たに目指す生徒像を確認し、熟議を進めることができた。 ・学校運営協議会に係るアンケートで「コミュニティ・スクールの一員として目指す生徒の姿の共有」の肯定的評価が100%となった。 ・学校評価アンケートによる情報発信に係る肯定的評価は86.0%であった。 ・コロナ禍で控えていた地域の行事(祭・育成会等)へのボランティア参加を実施することができた。 ・学校行事における保護者の参加の人数制限をなくし、できる限り保護者が参加しやすい環境づくりに努めた。	A	・学校・地域・家庭がより一層協力し合い、地域の中の生徒の育成に向けて、協働した取組を行っていく。 ・地域の小学校や高校との連携の更なる充実を図る。 ・今年度、学校HPに「柏陽中のつぶやき」ページを作成したが、更なる充実と周知を図る。 ・教職員の働き方改革と地域協働活動の両立には難しい課題もあると思いますが、子ども達のために協力してどちらもねらいが達成できるようにしたいです。今年度、PTAの取り組まれた柏陽祭は学校・地域が一体となって実施することができました。
4	<現状> ○令和4年度は、主体的に進路を選択できる生徒の育成を目指し、進路指導・キャリア教育について研究を行い、発表を行った。 ○タブレット等のICTの活用方法について、エバンジェリストを中心とし、研修を行っている。 <課題> ○全ての職員が「学習の個別最適化」の実現を目指し、積極的且つ効果的に活用した授業の実践のための研修を行うことが課題である。 ○デジタル教科書の運用やスタディサブリの活用について、教職員の自己研鑽と教職員間交流(教科会等)が必要である。	・ICT機器を活用した、アクティブ・ラーニング型授業に向けた研修の実施	①「学習の個別最適化」「学習の自律化」の実現を目指し、ICTの活用をはじめとする、タブレット等、効果的に活用する授業方法を、校内研修会で、外部講師を召喚して実施する。 ②各教科で、ICTを活用した研究授業と研究協議を1回以上実施する。	①全ての教員が、「学習の個別最適化」「学習の自律化」を意識して、ICTを活用する状況になったか。 ②全国・さいたま市の分析結果を踏まえ、本校の課題を明らかにし、授業改善の視点・手立てを設定することができたか。	・教職員90%以上が、授業で「効果的なICTの活用」を実施できた。 ・校内研修では、エバンジェリストを中心に、スタディサブリやデジタル教科書等、ICTサポーターにも協力を得て、ICTの効果的な活用法や、教職員のスキルアップの研修ができた。	B	・教科部会を活性化し、各教科ごとの「学習の個別最適化」「学習の自律化」を意識した、さらなるICTの効果的な活用法について追及する。 ・ICTを活用した、研究授業を各教科で実施を行い、研究協議を実施する。	

学校運営協議会による評価
 実施日令和6年3月4日
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等

・何がなんでもタブレットではなく、適切な利用について教職員、生徒が考えるときがきていていると感じています。
 ・個別の課題に対応する時間を設定し、個に応じた課題を克服できる時間があるのはとてもよい。ICTの活用については、エバンジェリストを中心に研修をさらに進めるのがよい。
 ・今日の社会(教育現場)では必須の教育教材であり教職員の指導も大変かと思うが、何よりも習慣づけるため基本的に家庭での教育も第一歩となる。近未来を託された若い人達にはしっかり活用して頂き教育の向上につなげて欲しいと思います。
 ・ICT化しにくい教科もあると思うが、授業における使用頻度はあがっていると思う。

・生徒の情報交換を密に行っているのがよくわかります。
 ・地域ボランティアとの連絡を取り行っている様子がよくわかります。
 ・自転車通学の際、交通ルールの徹底をお願いしたいです。高校生から社会人になった際、自分の身を守る為に必要になります。
 ・先生方の日々の努力に頭が下がります。お身体を大切に子ども達の為にこれからも宜しくお願いします。心のケアや配慮の必要な子ども達が増えているとお話がありました。今後とも子ども達によりそったご指導をお願いします。

・地域の事業に参加したり、地域の人が地域での子供達の様子を見守る。相互に関係をもちながら、連携を目指したコミュニティ・スクールを使っていたらいいと思います。
 ・学校運営協議会で目指す生徒像を確認することができた。次年度以降、目指す姿にせまるために、それぞれの立場でどのような事ができるか、熟議し実行したい。
 ・地域のまわりに柏陽中生徒の参加を期待します。
 ・地域の方々の人的資源をもっと活用できたらと思います。
 ・教職員の働き方改革と地域協働活動の両立には難しい課題もあると思いますが、子ども達のために協力してどちらもねらいが達成できるようにしたいです。今年度、PTAの取り組まれた柏陽祭は学校・地域が一体となって実施することができました。

・さいたま市、学びのポイントの趣旨を生かした授業づくりのための研修が大切と考えます。
 ・忙しい中と存じますが、学校評価や学校運営協議会の意見の基、校長先生の立てた学校の目標が達成できるよう子ども達のための教職員研修を実施していただけたらと思います。教職員の働き方改革が必要な状況の中、無理のない計画での実施を望みます。